

- 実施主体 草原再生オペレーター組合
- 実施場所 阿蘇市
- 実施期間 平成27年4月～平成28年3月



◇背景・ねらい

- ・未利用となっている草原の草を刈ることで、草原の保全と野焼きの危険性の軽減を目指す。
- ・採草した草を、飼料や堆肥用の資材として活用することで、地域資源の有効活用による活性化を図ることを目指す。
- ・後継者不足で野草の調達に苦労していた畜産農家に適正価格で販売することで、畜産業への貢献も目指す。

◆実施概要

平成27年度は、9月から飼料用の採草を開始し、3月の野焼き前まで堆肥・マルチ用を含めた採草を行った。

7月頃から堆肥・マルチ用の野草が在庫不足となったため、11月の採草分から納品可能ということで予約販売を行った。

阿蘇市広報紙2月号に「未利用の草地をご紹介ください」と記事を掲載していただいたことから、地元牧野から「採草をしてほしい」との連絡があり、採草を行うことができた。

北海道の訓子府町と置戸町から、合同産業後継者国内研修の方々が視察にこられた。外輪山での採草の様子を見学し、阿蘇の草原風景や採草作業と野草の利用などに感心していた。



野草地での採草風景

◆実施体制

オペレーター組合が主体となって事業を推進し、事業に係る牧野組合との協議や野草販売等は、九州バイオマスフォーラム及び阿蘇市、熊本県阿蘇地域振興局農業・普及振興課と連携しながら事業を実施した。



野草地での採草風景

◆成果

①草原保全・再生への貢献

平成27年度は、約96.9haの採草を行い、約302.9tの野草を収穫した。平成26年度の採草量は161トンだったので、ほぼ倍増した。

②活動の持続性・発展性

平成28年1月1日の熊本日日新聞において、野草堆肥の効果について報道されたことにより、堆肥用野草ロールの注文が増加した。今後採草量を拡大していくためには、未利用草地を多く抱える牧野組合の協力と、堆肥用の販路拡大も重要である。持続的な活動につながるように仕組みづくりを進めていく。



視察対応風景

◆実施者の感想

持続的な活動にするためには、売上が倍になる必要がある。草原の野草利用が草原保全につながる事をアピールする事で、飼料用及び野草堆肥用の採草量と販売量を拡大・向上させたい。